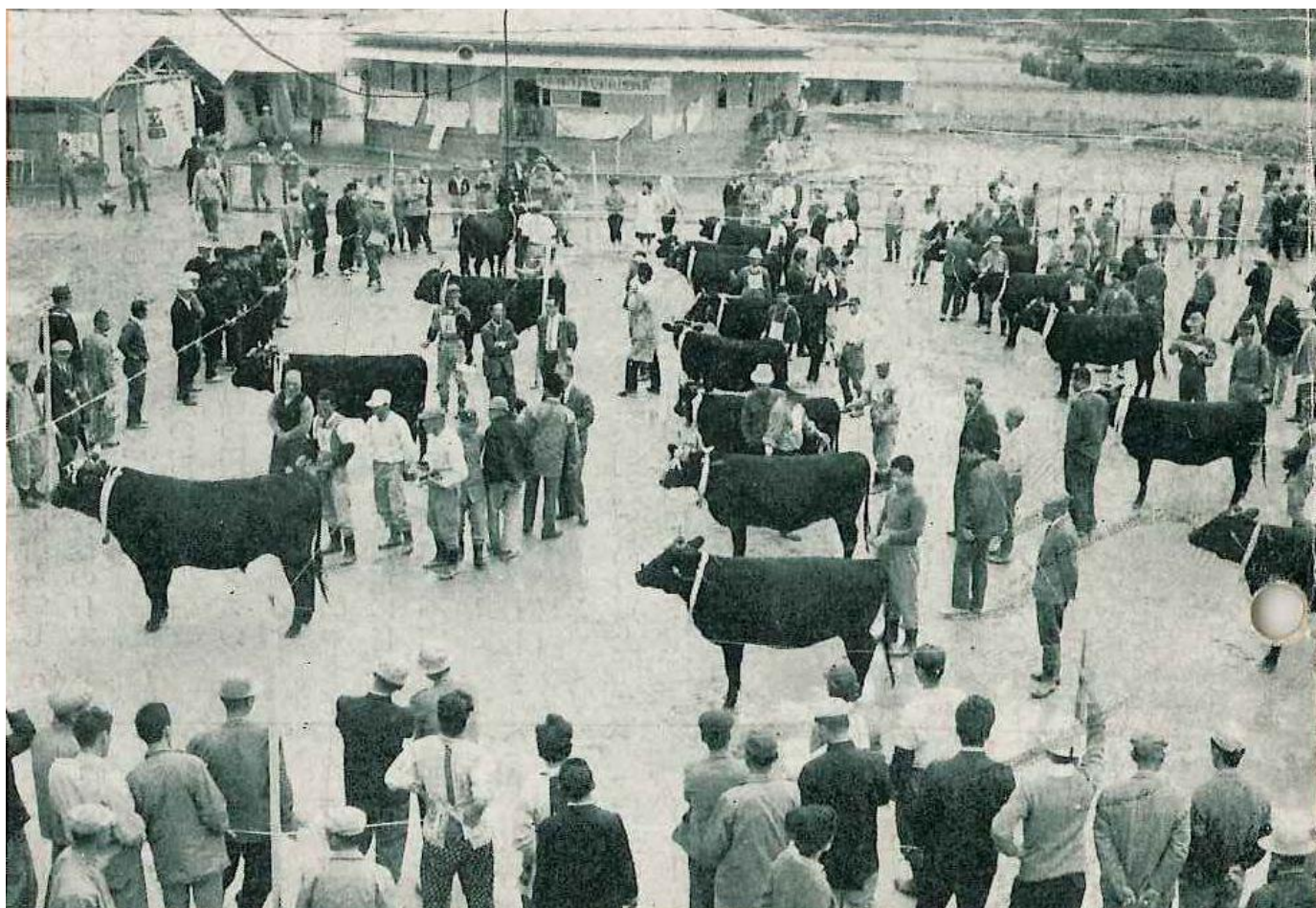


編集室より



◇ 総選挙はすんだ。11月も過ぎて急に寒くなって来た。11月は事件の多い1月だった。今年の十大ニュースの殆んどがこの月に集まった感じの内外であった。向寒の折、せめて心あたたまる思いのすることはないものだろうか。

◇ 第45回特別国会は始まった。池田首相は党と政府に総選挙の公約を十分盛りこむようにと指示したという。公約の実行とは、物価の値下げと、中小企業、農業政策の手直しであろう。ケネディー葬儀から帰国した池田首相は益々内外の政策に自信満々という口ぶりである。首相が自信満々という時は逆に内面不安があるのだという見方もあるが、一応は自信のある池田さんにこれから4年間の国政をまかせることにしよう。

◇ ところで自信まんまんの農業政策で一体何が我々に光明を与えるのであろうか。150アールの耕地をもち労働力3人の農家が自立農家といい、今の農業政策の骨子となっている。この農家の年間収入が都市労働者のベースに匹敵するという算術である。しかし都市労働者は2人が働いて家族を養う、農家は3人働いて同じ収入になる。しかもサラリーマンは企業家ではないが、農業は小さくても企業家、企業は資本の回転をさせる資金が必要である。この資本利潤を150アールの土地からどうして求めるのだろうか。最低所得は農業政策の骨子を実現すれば得られるが、農家を企業家として認めたことにはならないではないか。これでは自立農家といえるかどうか、農民は生かさず殺ろさずの思想の続きかと疑問がわいて来る。公約実現はよいがよく考えると寒肌のたつ話ではなからうか。

◇ 今年もあと1ヵ月であるが野菜の豊作貧乏は深刻である。酪農は乳価がおさえられ生産費の保償が出来ないと乳牛飼いはぼやく、黒牛飼いは多頭化すればする程儲けにならないという。しかし農家は減らないし、つぶれた話も余り聞かない。考えれば現代七不思議の1つなのかもしれない。こういった問題を深く考え合い意見の交換をする場が本誌のような雑誌の本命であろう。もっと真剣に自分の経営をみつめる主体性のある営農

岡山畜産便り 1963.11

方式を考える場、意見の吐露しあう場、これが「岡山畜産便り」であって然るべきであろう。読者自身のもの読者相互の意見の交換し話し合えるようにするのが本誌のねらいである。又早くそのようにしたいものであると念願して止まない。

よりよい畜産指導誌に＝本誌発行機構改革

◇ そんな意味をも含めて、更には本誌運営の合理化を図って、かねてより皆さまの御要望でもあった「岡山畜産便り」と県総合畜産連発行の「おかやま総合畜産」が発展的に総合し、社団法人岡山県畜産会に引継がれて、新春1月号から発行することになっている。

◇ 発行所が変わっても全く別のものになる訳ではない。両誌の編集に携わっていた面々は全部新しい運営に加わるようになっており、表紙も形式も従来の姿をそのまま残しての継承である。その上両誌の統合を機会に同種の畜産広報誌を包含したものとし、文字通り畜産広報誌の一本化を図り、内容もそれだけ拡大、読者対象も広げて合併問題の盛んな今日、他にさきがけて規模拡大による広報の合理化を遂げようという訳である。

◇ 規模拡大、広報の合理化という意味は、従来の県畜産課が主催していた畜産研究会に、県畜産会の会員団体（県総合畜産連、県酪産連、県経済農協連、県農業共済連、県養鶏農協組合、県獣医師会、県家畜商協）が加わり県下の畜産組織の殆んどが本誌の編集運営に力となり、各機関、各団体の自らの広報として活動しようということである。

畜産関係者は皆んな本誌を読もう!!

読者拡倍運動に協力を

◇ 本誌の拡大、統合を記念して読者を倍にする運動に協力願いたい。せつかく統合し誌面の刷新を図るのだから、これを多くの人に読んで貰い、畜産経営の設計に、又指導用パンフレットに利用しようではないか。儲かる畜産経営への脱皮に大きな壁を感じ、ゆき悩んでいるのは誰もがである。

◇ 鎖が鎖として役に立つのは、鎖の1つ1つの輪が強く立派であるからで、その1つ1つが連なり合っているから1本の鎖として強い働らきをするのである。畜産が畜産として強力な農家の生活を支えるに足るものたる為には、畜産を営む1人1人が先ず立派な技術と人となりでなければなるまい。そしてその1人1人ががちりかみ合ってお互いの連携を保たねば畜産としての本当の強さは出て来ない。

◇ お互いが同じ志しをもつ仲間を作り、誘い合い、協力して研究することが必要であろう。仲間を作るためにお互いの意見の交換をする場として、本誌の読者を増やす運動に御協力して戴きたいと願う次第である。1人が1人ずつさそっても2倍にはすぐなるのではなからうか。

「岡山畜産便り」「おかやま総合畜産」 愛読者の皆さまへ

◇ 永らくの御愛読を心からお礼申し上げます。「岡山畜産便り」は創刊以来14年、「おかやま総合畜産」は3年の歴史をもって皆さま方の絶大な御愛顧により、つつがなく畜産振興の普及の任を果して参りましたが、10年一昔ならぬ、1年一昔と変りつつある時代の動きに合わせて、広報誌も前述の通り皆様の御要望に従い統合することとなりました。

◇ 今回の統合により旧来の両誌の愛読者の皆様には大変御迷惑をおかけすることになりますが、新体制のもとによりよいものを発行することに免じて、今後共従前以上の御愛読給われますようお願い致します。

◇ 11月号以後の誌代は、1部50円になりましたが、現在までに年貫分としてお申込みの方は当初の申込み通りの契約の切れる月まで引継いでお送り致しますので御了承下さい。契約の切れた翌月から新規基準で継続して戴くことになります。がその折にもよろしくお願い致します。

◇ 明日への歩みを続ける皆さまと共に本誌もよりよいものにすべく努力をいたく、県下の畜産の発展を祈願

岡山畜産便り 1963.11

し寒さに向う年の暮、風邪等に十分気をつけ乍ら今年の上めくくりと来年の計画にいかんないよう心から祈ります。

ふとした思いつき お考えご意見をそのままに（原稿用紙4枚位にまとめて）
皆さまの御投稿をお待しています

私の（地区）の畜産経営（お宅の経営をいかにして合理化したのか？ 儲かる畜産はこうしてやった、という体験談を図表を入れて。）

私のアイディア（貴方の工夫した実用新案、一寸した思いつき、飼養技術のヒント、生活合理化のメモ等まとめて。）

私のいいたいこと（農林行政に、農林団体に、又農家に、中央、末端を問わず批判並びに建設的意見をありのままに。）

質問箱（技術・経営・その他何んでも知りたいことをお尋ね下さい。係ではその道の権威に依頼して、責任をもって誌上でお答えします。）

話のたね（あなたの目にふれた地区での出来事、ここにこんなことがという話題、ニュース等を取材して。）

編集者への便り（本誌発展のために、畜産振興のために、本誌に対する感想・意見・注告・その他お便りをお気軽におよせ下さい。）

送り先 岡山市東田町農業会館岡山県畜産会
締切りは毎月5日おくれたものは次号に廻します。
採用したものには御礼又は記念品を差しあげます。

～新年号からの予約申込を受付け～

誌代 1部50円（送料共）
年間予約600円（送料共）

但し1部予約の場合は増頁号の誌代をその都度の価格とし、年間予約者は増頁特集号の分も1部50円のサービス価格とす。

集団申込の特典

10部以上を一括で年間予約する方は1部誌代を45円にします。100部以上を一括で年間予約する方は1部誌代を40円に割引きます。但しこの場合は一括講読ですから個別発送は致しません。

申込方法

同封の振替用紙に代金を添え住所氏名説明の上申込んで下さい。

集団申込は代表者の名で何人分かを明記、誌代合計金額を払込んで下さい。

申込先

岡山県東田町53の3農業会館内 社団法人岡山県畜産会管理普及課

今がお申込み得

年内にお申込みになりますと11月・12月号を無料サービス致します。